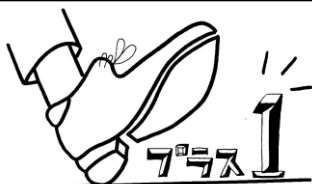


行動



2022（令和4）年11月25日

福山市立日吉台小学校

6年学年通信

No.21

思い出に残る最高の修学旅行！

修学旅行では、準備や子どもたちの送迎等、ありがとうございました。おかげさまで、無事に修学旅行を終えることができました。修学旅行は、学校生活でできない体験を通して、行動力を高めることや仲間とのつながりを深め、協力し、よりよい集団にしようとする態度を育てることをねらいとして取り組んできました。

2日間、子どもたちは京都（金閣寺、二条城、清水寺、三十三間堂）、奈良（東大寺）、大阪（ユニバーサルスタジオジャパン）でそれぞれが目的意識をもつとともに、ガイドさんの丁寧な説明を聞いたり自ら考えて行動したりして、実りある学習となりました。また、初めての宿泊体験ということもあり、不安はあったと思いますが、友だちと2日間一緒に過ごし、楽しい思い出をつくることもできました。

修学旅行実行委員や班長、室長を中心とした集団行動についても、声をかけ合いながら一人一人が意識して行うことができました。修学旅行で学んだことを、今後の学校生活に活かしてもらいたいと思います。



たくさん学んだ修学旅行

六年一組 佐田 兼堂

「井の中の蛙大海を知らず」の一言で、この修学旅行を表現することができる。この言葉には、次の三つの意味がある。

一つ目は、金閣寺。正式には鹿苑寺だ。僕は今まで鹿苑寺の金箔一枚が、十センチメートル×十センチメートルの大きさで貼られていることは知っていたが、何枚も貼っているのかと思うくらい一枚一枚綺麗に貼っていることや鹿苑寺の前にある池にある島が日本を表しているということは知らなかった。学校で勉強したり調べたりしていたので、もう知らないことはないと思っていたが、実際に見ると知らないことがたくさんあったので、もっと勉強しないといけないと思った。

二つ目は、東大寺でのことだ。僕は最初、奈良公園と東大寺は離れていると思っていたが、南大門からすぐに奈良公園があるということには知らなかった。また、東大寺には、東大寺盧舎那仏像だけあると思っていたら、他にも仏像が四つほどあることを知り、さらに盧舎那仏像の周りにはある仏像や、天井のあみのような模様は上の方ほど大きいなどを知ることができた。

三つ目は、ユニバーサルスタジオジャパンのことだ。僕は、ユニバーサルスタジオジャパンのパーク内を五分程度で半周できるだろうと思っていたが、十分ぐらいの時間がかかってしまった。まさかこんなに時間がかかるとは思っていなかった。予定通りに行動することができず、ぎちぎちに予定を立ててしまったことを後悔した。

修学旅行を通して、普段行くことができない場所や見ることで見えないものを見ることができた。今後は、しっかり調べて考動しようと思った。





「公共の場での学び」の一言で、この修学旅行を表現することができる。この言葉には、次の三つの意味がある。

一つ目は、金閣寺でのことだ。一般の人もたくさんいる公共の場でガイドさんの話を聞き、学校で習ったことを活かし、自分が知らなかったことを知ること学びを深めることができた。

「金閣寺の金箔は、全部で約三十キログラムあり、かかったお金は、なんと約七億円もするそうです。」

ガイドさんの話を聞き、調べていなかったことを知ることができた。

二つ目は、清水寺のことだ。たくさんの方がいる中で自分が公共の場にいることを自覚し、清水寺の歴史について学ぶことができた。

「どうぞ。」

「ありがとうございます。」

清水寺の舞台での出来事だ。一般の人が僕に、舞台からの景色が見えるようによけてくださったのだ。僕はその人に丁寧語を使い、礼をした。今、舞台であった出来事を振り返るとこの考動は良かったと思う。

三つ目は、ユニバーサルスタジオジャパンのことだ。こまめに時計を見て時間を確認しながら計画的に行動し、時間内に集合場所に集まることのできた。グループの人とはぐれることなく、迷惑をかけずにアトラクションや買い物を楽しむことができた。店の場所やアトラクションの場所が分からなかったら近くにいた従業員の人に聞くこともできた。

修学旅行を通して、普段見ることのできない歴史のある建造物を見て、自分が学校で学んだことやガイドさんの話から学びを深めることができた。修学旅行で学んだことを授業で活かしていこうと思う。

「行ってきます！」

大きな声であいさつをし、僕たち六年生はバスに乗った。これから二日間、京都・奈良・大阪への修学旅行。学年での泊まりは初めてなので緊張もあったが、行くことができてとても嬉しかった。一日目は金閣寺、二条城、清水寺、三十三間堂に行き、二日目は東大寺、ユニバーサルスタジオジャパンに行った。

僕が特に心に残った場所は清水寺だ。清水寺では、色々なことを学んだり、楽しんだりできた。また、清水寺の舞台の高さに驚いた。約十二メートル。

「清水寺の舞台から飛び降りる」なんて言葉があること自体おかしいと思ったほどだ。僕は清水寺で判断することの大切さを実感した。これは清水寺で買いたかったお土産が買えなかったからだ。坂の上にはあったのだが、ぼくは「下の方にあると思うから。」と買わなかった。しかし、下の方にはそのものがなく、先生にまで迷惑をかけ、時間も足りなかった。そして結局買えなかったのだ。少しでも時間を見ていたり、判断できていたりしたらこうなることはなかったと感じた。だから判断することは大切だと思った。

僕は、この修学旅行で学年のめあてを達成することができた。自分の知識とつなげて考えたり、ガイドさんの話を聞いたり、実際に見ることのできることを深めることができた。修学旅行でなかなかできない経験をして、力を試せたのでこれからも今までつけた力を活かしたい。



私は修学旅行の二日間に、京都、奈良、大阪に行きました。この二日間は、古くからある技術の素晴らしさを感じただけではなく、自然の豊かさや人々の優しさにも触れた修学旅行になりました。

その中でも特に心に残っていることは、ガイドさんの説明の分かりやすさです。普段、何か気になることがあった時は、すぐに検索ができ、答えも出るインターネット機器を活用して調べていました。そこでは、サイトによっては考え方が違い、はっきりとした答えが見つかりませんでした。しかし、バスガイドさんは違いました。

清水寺を見学している時に素朴な疑問が浮かんだのでガイドさんに質問してみると、その質問に対する答えと理由、実際にどこを見ればよく理解することができると、私を私に理解するまで丁寧に教えてくださいました。

「清水寺は、なぜ釘を使用していないんですか。」

という質問をすると、
「釘と木では、膨張率が違うのです。膨張率が違うと長い年月の間に、温度の変化ですき間ができてしまい、緩んでしまうのです。それを防止するために釘を使わないのです。同じ木同士をつなげると膨張率が同じなので、緩むことがなくなります。だから、昔の姿のまま現代に残っているのですよ。」

と教えてくださいました。
このようなことから、私はガイドさんの説明がとても心に残っています。今後、もし自分が分からないことや気になることができたなら、辞書や家族、色々な人に聞いてみたいです。

